

7 - 4 安政南海地震の余震活動

—「真覚寺地震日記」と新史料「地震日記—木屋本」との比較—

Aftershock Activities of the 1854 (Ansei) Nankai Earthquake -Comparison between 'Shinkakuji Earthquake Diary' and 'Kiya Earthquake Diary' -

高知大学理学部附属 高知地震観測所

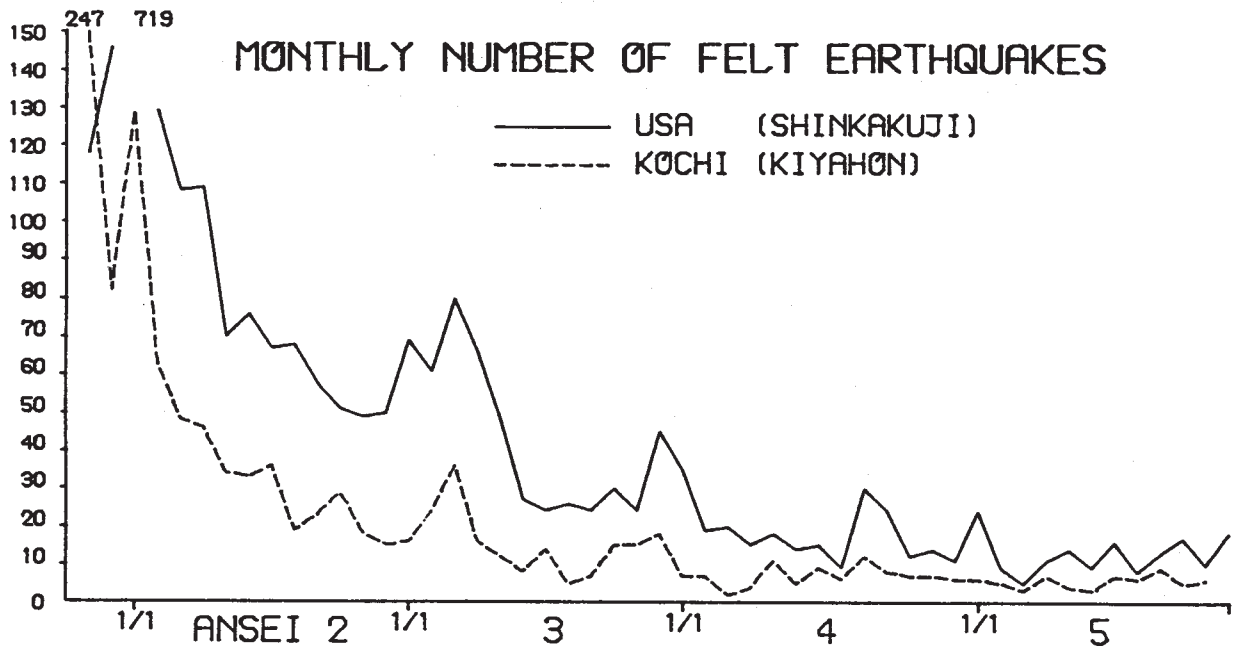
Kochi Earthquake Observatory, Faculty of Science, Kochi University

震災予防調査会報告第46号に、「谷脇茂実日記に云……去冬11月4日より地震度数の覺を、鷹匠町水門の御番人嘉久助(75才)が記せし物を見しに、日々夜々大震、中震、小震を分ちて委敷ものして、実に繁なるもの也。又月々の末には、其員数を縮たれば、夫のみを取て左に出す」とあって、安政元年11月から翌2年12月まで、月毎の地震数を、大震、中震、小震に分けて書いてある。また、「土佐大震記」にも、「鷹匠町水門の番人嘉久助の手記、地震度数覺」として上記の度数とほとんど同じ地震回数がのせられている。この嘉久助の手記とされる地震の度数は、名前が嘉久助、嘉助あるいは喜久数となつてはいるものの、あちこちに引用されている。しかし肝心の嘉久助の手記そのものは見つかっていない。

昭和58年、高知県立郷土文化会館が10年程前に高知市菜園場の豪商木屋(藩政の木材商)竹村家から寄贈を受けた古文書を整理中、「地震日記」と題された53枚の古文書が発見された。この日記には、安政5年11月末日までの約4年間、毎日の地震回数を、大震、中震、小震に分け、しかもすべて時刻をつけて記録されている。しかし被害についての記述は始めと終りにあるに過ぎない。この日記に記されている地震の度数が前記嘉久助の手記の度数とほとんど一致している上に、各月の終りにその月の地震回数の合計が記されているので、あるいは嘉久助の書いたものと考えられるが、奥付きもなく、また筆跡の様子から判断すると写体と考える方がよいので、嘉久助手記の原本は他にあるものと思われる。

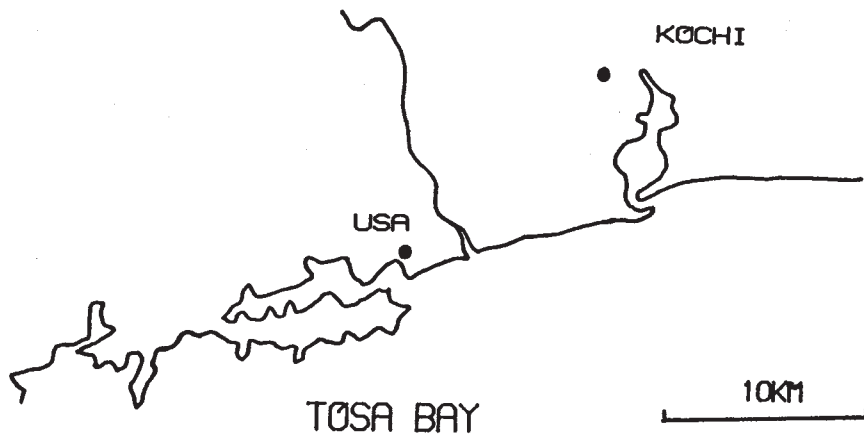
この大地震については、土佐市宇佐町の「真覚寺日記」という貴重な史料があるので、この両日記の月毎の地震数を比較したところ、第1図に見られるように、宇佐町では高知市の2倍以上の有感地震を記録している。両日記が書かれた位置を第2図に示してあるが、僅か10数kmの距離にある2点でこのような著しい数の違いがあるのは、余震の震源が宇佐町に近く、その深さがきわめて浅かったと考えられる。

「地震日記—木屋本」は現在高知県立郷土文化会館に所蔵されている。



第1図 真覚寺日記と木屋日記に記された宇佐町と高知市における月毎の有感地震の回数

Fig. 1 Monthly number of felt earthquakes in Usa and Kochi kept in the Shinkakuji Earthquake diary and the Kiya one, respectively.



第2図 真覚寺日記と木屋日記の筆者が住んでいたと推定される場所

Fig. 2 Map showing the locations where the Shinkakuji and Kiya Diaries were kept.